

必携パンフレットは、職員誰もが目の届く場所に掲示する。

(例：電話の近くや冷蔵庫等)

運営推進会議を活用し、地域と一緒に作成します。
地域と共に作成することで、より密接した連携が取れることに加え、地域資源の発掘や、地域を支えるためのヒントを見つけることができます。

避難準備情報を避難開始と捉えることで、いち早く安全な場所への避難を徹底します。
避難を面倒とせず、尊い命を守るために判断する勇気を持ち、避難準備情報発令と共に避難を開始しましょう。

市町村が指定している避難所が、認知症の高齢者に対応しているか確認する必要があります。トイレや手すりの有無、横になるスペースがあるか等、安全安心に過ごせる居場所の確保が必要になります。

避難訓練には、避難場所までの移動訓練も行い、定期的に避難場所の設備の確認も行いましょう。居心地についてもお年寄りから意見を聞いてみましょう。

今回の台風では、民生委員や消防団、地域住民の方々に避難を勧められ避難したホームが多く見られました。

有事の際には、グループホームが一方的に助けてもらう立場に立つのではなく、積極的に地域を助けることも常に考え行動し、地域に暮らす方々にも必要とされる関係性を築きましょう。お互いさまの関係性が災害に強い地域を創ることを認識しましょう。

8. 30を忘れない!
いのち
「生命を守る三か条」

- 1. 無駄と思わずなれ「避難準備情報」**
「避難準備情報」を「避難開始情報」に読み替えて、勇気をもって避難せよ。逃げる手間は大きいと思われがちだが、それが大切な命を守る事に繋がるといふ強い意識を持ちましょう。
- 2. 安全安心に一日過ごせる居場所の確保**
指定避難所が、認知症のお年寄りたちに配慮されている場所とは限りません。より安全安心に過ごせる福祉避難所等の居場所を確保しよう。
- 3. 一人の力よりお互いさまの心**
一人では限られています。お互いに声を掛け合い、地域と共に避難しよう。グループホームだけではなく地域の要配慮者と一緒に避難する体制を創ろう。

避難場所の連絡先

避難の際に慌てぬよう、避難場所の名称、住所、連絡先を記載しておきます。また、その避難場所がどのような機能を持っているかを把握し、必要物品の準備や、長期の避難となった場合を想定する事も必要となります。

連絡先一覧

連絡先一覧を記載します。避難の際は持参し、各関係者への連絡に活用します。
ご利用者のご家族やホームの職員の連絡先も記載しておくとも良いでしょう。

防災マップ

防災マップは、ホームから避難場所までの経路を記入します。

大雨の際に水没する箇所や、渋滞個所の確認、近隣で支援を必要とする方の場所の確認、日頃頼りにしている方、近隣の職員の家等を記載し、避難の経路だけでなく様々な場面で活用できるマップを作成します。

作成の際には地域の方々からも意見をいただき、運営推進会議等で避難のシミュレーションも行います。

ホーム名： グループホーム いわた

避難場所名	総合福祉施設もりおか
連絡先	0123-45-6789
住所	〒111-0000 東京都千代田区千代田
設備状況	トイレ洋式3つ(内1か所車いす対応) 簡易ベッド10台 デイスーパー併設

避難準備情報発令
↓
持ち出し物品の確認
↓
お年寄りの状態確認
↓
避難所への連絡・近隣への連絡
↓
避難

市役所	0123-00-0000
病院	0123-00-0000
消防署	0123-00-0000
民生委員	090-0000-0000
所長	090-0000-0000

防災マップ

<input type="checkbox"/> くすり
<input type="checkbox"/> 着替え(おむつ含む)
<input type="checkbox"/> 食料・水
<input type="checkbox"/> 連絡先一覧
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
×	発電機	水害	水害	火災	備蓄食料	津波訓練	夜間火災	×	×	地震	

避難までの流れ

避難準備情報発令から、避難までのフローチャートを記載しておきます。管理者が不在時や夜間に落ち着いて判断できるよう、利用者、家族、職員、経営者が全員で関わり作成し、共有します。

物品リスト

避難の際に持ち出す物品リストを記載します。
避難所の状況を加味し、あらかじめ準備する物や、持ち出す際に入れるものをそれぞれ記入しておきます。

また、すぐに運び出す工夫も必要となりますので、職員全員で作成します。

避難訓練確認表

一年間の防災活動を記載します。大掛かりな訓練だけではなく、勤務している職員だけでも出来る様な備蓄食料の点検や、避難場所の確認も行います。訓練を形骸化せずコツコツと毎月訓練を重ねることが大切です。

グループホームの立地により想定される災害の種類が異なることを認識し、自分たちのホームがどのような災害が身近に起こるのかを地域の方々と共に考え備えます。